



市の花 「梅」

早春に香り高い花を開く梅は、昔から庭木や盆栽として観賞されてきました。市内には果実栽培の梅林も散在します。五弁の花は、5ヵ町村の合併で誕生した都留市を象徴しています。



市の木 「赤松」

常緑樹の赤松は、めでたい門松に飾られ、建築材に活用されます。市内で赤松は森林面積の約3分の1を占め、自然景観を豊かにしています。直立した幹と、四方へ広がりの枝とは、市の発展を象徴するかのようです。



市の鳥 「鶯」

標高の高い山並みに囲まれ、緑の木々や渓谷を縫って流れる清流など、市の周辺は自然環境に恵まれています。早春から初夏にかけて最も多く聞ける鶯は、自然に恵まれた平和な都市を象徴しています。

市民憲章

わたくしたち都留市民は

- *健康で明るいまちにいたします。
- *自然を愛し、美しいまちをつくります。
- *文化都市にふさわしい豊かなまちを築きます。
- *たのしく働き活気のある産業のまちに育てます。
- *たかいに信じ協力し、平和なまちをつくります。

(昭和44年4月15日制定)



市 章

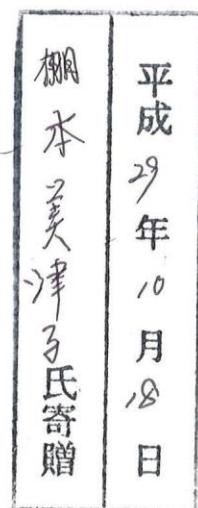
「都留」の起源はむかし、富士の裾野が蔓のびた様子を想像し、「連葛」とか「豆留」などと書かれ、また和銅年間の書には「鶴」とも書かれていた。

鶴が多く棲息していたこの地に縁をとって「都留」と名付けた。

市章は、カナ文字、ツルの二字を形どって図案化した。

[表紙説明]

葛飾北斎の下絵と伝えられ、八朔祭りで屋台の後幕として飾られた「牧童牛の背に笛を吹く」を素材に、都留市のイメージである清流、深緑をデザインし、浮世絵風に表現しました。



発行日/昭和61年10月1日

発 行/山梨県都留市

編 集/企画課

製 作/PRECON